

人間文化研究機構国文学研究資料館

令和4（2022）年度第4回運営会議 議事要旨

- 【日 時】 令和5（2023）年2月8日（水） 13：30～15：55
- 【場 所】 オンライン会議「Zoom」
- 【出席者】 安藤、入口（議長）、海野、大隅、大谷、大山、落合、川平、神作、久富木原、倉員、齋藤、佐々木（副議長）、高田、高埜、張、西村、ヒューイ、藤實、山地、山本（和）、山本（聡）の各委員
- 【陪席者】 渡部館長、島崎管理部長、杵山総務課長、進藤財務課長、片岡学術情報課長、河野主幹、その他関係職員

議事に先立ち、渡部館長から令和5年1月5日に御逝去なされた青田寿美准教授への黙祷及び挨拶があった。

続いて、杵山総務課長から、会議の定足数は運営会議委員22名のうち、外国出張による欠席者は0名で、過半数は12名以上となり、全員出席しているため定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認等があった。

【第3回（令和4（2022）年11月4日開催）運営会議事要旨確認】

原案のとおり了承された。

入口議長から、当館webサイトにおいて2月24日（金）までに公開予定である旨の説明があった。

【審議事項】

1 研究教育職員の人事（昇任）について（資料1）

神作委員から、取扱注意資料1に基づき、研究部所属の准教授（1名）の令和5（2023）年4月1日付け教授昇任について、候補者の経歴や選考過程等の詳細な説明があり、可否投票の結果、了承された。

2 令和5（2023）年度客員教員について（資料2）

山本（和）委員から、資料2に基づき、古典籍共同研究事業センターの客員教授（1名）の次年度の更新について説明があり、審議の結果、了承された。

【報告事項】

1 特任研究員の人事について（資料なし）

入口議長から、前回の本会議において令和5（2023）年4月1日付けでの採用予定を報告した特任准教授2名のうち1名から辞退の申し出があった旨、及び、現在は古典籍データ駆動センター長である客員教授について、令和5（2023）年4月1日付けでクロスアポイントメント制度を適用した特任教授としての採用手続きを進めている旨の報告があった。

2 大規模学術フロンティア促進事業における事業移行評価及び事前評価について（資料3）

神作委員から、資料3に基づき、現行計画「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」は、令和5（2023）年度が最終年度となるため、5～6月頃に学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会による事業移行評価が実施される予定である旨、また、その結果を踏まえて後継計画「データ駆動による課題解決型人文学の創成」の事前評価が実施される予定である旨の報告があった。

3 「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の意向表明について（資料4）

神作委員から、資料4に基づき、当館から「データ駆動による課題解決型人文学の創成」及び「参加型人文学資料保全研究プロジェクト」の2件を申請したこと、人間文化研究機構の他機関及び機構本部を含めた機構全体での申請は10件であること、また、日本学術会議から公募結果が公表されており、人文・社会科学9件のうち人文機構からの申請が5件となっていることの報告があった。

大隅委員から、昨今話題となっている「ChatGPT」のようなAI技術等を上手く活用することが人類の知にとって非常に重要であり、「データ駆動による課題解決型人文学の創成」の推進により大規模画像データを基盤としてデータの情報量が増加していくことは、総合知の創出に大きく寄与すると考えられる旨の意見があり、山本（和）委員及び海野委員から、AI技術の活用についても検討を進めており、新たに公開された技術等についても速やかに確認を行い、様々な可能性を検討していきたい旨の回答があった。

山地委員から、「データ駆動による課題解決型人文学の創成」におけるロボットを活用したデータ化への取組について質問があり、山本（和）委員から、ロボットを導入した際の人文学研究者による操作（扱い）への対応や、導入及び保守等の予算の確保などの課題が想定され、今後、情報学の研究者との連携などを含め検討していきたい旨の回答があった。

久富木原委員から、古典籍データ駆動研究センターの設置、及び担当教員の配置について質問があり、神作委員から、令和4（2022）年4月1日付けで古典籍データ駆動研究センターを新たに設置し、同時に教員配置を行った旨の回答があった。

倉員委員から、「未来の学術振興構想」は、複数の学術振興のビジョンが統合されてグランドビジョンとなることから、今後実施されるヒアリングに備え、理工・工学系の研究に参画可能であると判断される可能性も踏まえた準備をしておくことが望ましい旨の意見があり、神作委員から、大規模学術フロンティア促進事業の事業移行評価等のヒアリングも同時期に実施されることが想定され、今後注視しながら適宜対応していきたい旨の回答があった。

久富木原委員から、提案分野を人文・社会科学としたことについて質問があり、神作委員及び山本（和）委員から、マスタープラン2020において「データ駆動による課題解決型人文学の創成」が人文・社会科学分野で策定されていることを踏まえて同分野とした旨の回答があった。

4 大学共同利用研究教育アライアンス（IU-REAL）異分野融合・新分野創出プログラム2023年度共同研究の申請について（資料5）

神作委員から、資料5に基づき、大学共同利用研究教育アライアンスが公募を行った異分野融合・新分野創出プログラム2023年度共同研究に、当館からNII及びCODHとの共同研究を応募した旨の報告があった。

5 令和5（2023）年度国文学研究資料館予算（案）について（資料6）

進藤財務課長から、資料6に基づき、予算総額が前年度比45,069千円の増額となっており、

教育研究組織改革分（組織整備）として 43,250 千円増の予算が措置されたこと、及び「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」については、前年度と同額の予算が措置されたことの報告があった。

6 令和 5（2023）年度総合研究大学院大学先端学術院設置について（資料 7）

齋藤委員から、資料 7 に基づき、令和 5（2023）年度より、総合研究大学院大学は、現在の 6 研究科 20 専攻から、先端学術院の下に 20 コースを設置する体制に改組される旨の報告があった。また、併せて、新たに国立国語研究所及び総合地球環境学研究所が加わる旨の報告があった。

7 その他

（1）国文学研究資料館におけるデータベースについて（資料 8）

入口議長から、資料 8-1 に基づき、当館で運用している「日本古典籍総合目録データベース」と「新日本古典籍総合データベース」を統合し、本年 3 月より「国書データベース」となることの予告を 1 月に行った旨の報告があった。

続いて、神作委員から、資料 8-2 に基づき、当館で公開している 26 本のデータベースについて、本年 4 月より国書データベースや国文学・アーカイブズ学論文データベースを軸とした新たなサービス体制へと移行することの予告を 2 月に行った旨の報告があった。

川平委員から、使用頻度が高い「断本大系本文」及び「日本古典文学大系本文」が廃止されることについて研究者コミュニティの間でも大きな反響があったことを踏まえ、権利の買い取りによる継続の可能性、及び廃止する場合の代替措置について質問があり、神作委員から、買い取りに要する予算の確保、代替となるデータベースを作成する人員の配置ともに困難である旨、及び T E I で新たにテキストを構築していくことの検討を開始している旨の回答があった。

さらに川平委員から、個々の研究者が所持している翻刻データを集約することについて質問があり、神作委員及び海野委員から、画像からのテキスト作成について、国立国会図書館において公開している O C R を、当館所蔵の画像に使用した際の要する時間を検証する作業を 3 月に開始する予定であること、当館所蔵資料を翻刻する際は、当館が二次利用することへの承諾を条件とし許可しているため、これを集約することなどについて検討している旨の回答があった。

高田委員から、「国文学論文目録データベース」について、近年、多数の掲載漏れが発生していると見受けられるため、データ入力的基础作業を充実させてほしいと意見があり、神作委員及び海野委員から、入力作業の外注や機械化を検討している旨の回答があった。

（2）今後の催し物について（資料 9）

入口議長から、資料 9 に基づき、令和 4（2022）年度催し物について報告があった。

【当館へのご意見】

高埜委員から、歴史・アーカイブズ系の尊重と研究教育職員 1 名の採用についての要望、及び人事案件は本会議の審議事項とすべきではないかとの意見があった。

入口議長から、人事案件は館長の専権事項である旨の説明があった。

渡部館長から、館内関係者とのブレインストーミングを行い意見集約し、然るべき会議に諮った上で、本会議において計画を報告している旨の説明があった。また、歴史・アーカイブズ系教員には大変尽力いただいていることを承知しており十二分に敬意を持っていること、人員や予算等に係る多くの課題の中から優先順位を熟慮していること、歴史・アーカイブズ系教員

は当館の研究及び事業に不可欠であり、保存科学も大事であることから人員補充については今後も検討していかなければならない課題であると認識していること、館内で話し合いながら一致団結して進めていく考えであることをご理解いただきたいことなどの説明があった。

最後に、高埜委員から、今後ともぜひ話合いの場を設けて進めてほしいとの要望があった。

以上